

# 骨粗鬆症

【骨の機能は2つある】

## ◎はじめに

今回より、1年間にわたって香川県臨床整形外科医会が毎月1回『寝たきりにならないための整形外科医療（健やかな老後を目指して）』と銘打ったコラムを担当する事となりました。

現在、寝たきりになる原因としては、骨折が脳卒中について2番目に多く、関節や脊椎の変性疾患を加えると整形外科領域の疾患が全体の約三分の一を占めています。今回は、骨折の原因として最も重要な骨粗鬆症について説明いたします。

## ◎骨粗鬆症とは

骨は体の中で2つの働きをします。その一つは体の支持組織として、移動したり、

物を投げたりするときの筋肉の支点となる働きです。もう一つは、生命活動に必要な血液中のカルシウム濃度を維持するための補給庫としての働きです。血液中のカルシウムが不足すると、直ちに骨は溶解され吸収という現象（骨吸収）が起こります。反対に、血液中のカルシウムが充足している（若い）時は吸収された部分は修復されます（これが、成長の時期にあたります）。若いときにカルシウムを充分蓄積した骨でも、女性では閉経期を境にカルシウムの蓄積と吸収の逆転現象が起こり、次第に骨が減ってくるという、いわゆる骨粗鬆症が起こりやすくなります。

## ◎診断

骨粗鬆症の診断では、基本的に①脊椎の

レントゲン撮影②骨密度測定③骨代謝マーカー測定が行われます。整形外科の専門医であれば、①だけでも大まかな診断がつきます。②には種々の測定機器があり、骨に含まれるカルシウムの量を数値的に知る事が出来ます。機種によって一長一短ありますが、治療に際しては同一機種で変化を見て行く事が大切です。③には骨吸収マーカー（カルシウムの支出に相当します）と骨形成マーカー（カルシウムの収入に相当します）があります。収入と支出のバランスが崩れて赤字になると骨粗鬆症となります。これらを計測することによって、治療薬の選択・治療効果の判定を具体的な数値で知る事が出来るようになりました。

